

教育相談のお知らせ

さわやかな季節となり学校も明日から後期に入ります。さて、4月にお知らせ致しましたように、本校ではスクールカウンセラーとして臨床心理士の中筋裕子さんをお迎えして教育相談を実施しています。10月1日から12月19日までの教育相談実施日を下記の通りご案内いたします。

記

1. 日 時

なかすじ ゆうこ

スクールカウンセラー 中筋 裕子さんの来校日

10月：	2日（火）	9日（火）	16日（火）	23日（火）	30日（火）
11月：	6日（火）	13日（火）	19日（月）	20日（火）	27日（火）
12月：	3日（月）	4日（火）	11日（火）	18日（）	



10：30～11：20（授業中）……保護者からのご相談

11：55～12：35（昼休み）……生徒本人、又は保護者からのご相談

13：00～14：50（授業中）……保護者からのご相談

15：05～16：30（放課後）……生徒本人、又は保護者からのご相談

※ 原則として1回の面談時間は、授業中は50分、昼休み・放課後は40分とします。
※ 12月は冬時間のため、時間が変更になります。

2. 場 所 生徒相談室（本館1階）

（生徒相談室前の階段下左手に待合場所があります）

3. 相談申し込み方法

ア) 保護者の方

事前に必ず電話で下記までお問い合わせ下さい。

TEL 06-6303-5661

大阪府北野高校 保健室

イ) 生 徒（次のうちいずれかで）

- 直接相談室へ行って、中筋さんに話す。
- 保健室前の相談予約カードに記入し、予約カード用ポストに入れる。
- 保健室の先生を通じて申し込む。

スクールカウンセラー 中筋裕子さんより

「猛暑」「酷暑」「天災レベル」と言われた夏もようやく過ぎ、朝晩はコオロギの音が聞こえるようになってきました。皆さん心身の調子に変わりはありませんか？

水泳大会も終わり、次は体育大会ですね。クラスのまとまりを意識する機会が多いのではないかなと思います。集団心理についてのシリーズ、今回は、「リスキー・シフト」についてお話しします。

話し合いをすると、色々な意見が出て、お互いの考えを反映した公平で民主的な決定が出されるものだと思いますが、実はそうでもないのです。

実験心理学者の I.L.ジャニスは、トルーマン政権の北朝鮮侵攻など、歴史上の重大な政策決定失敗の事例を検討し、結束力が強い集団では、集団内での意見を一致させようとする傾向が強く、一致した意見に対しては、メンバーはそれぞれの疑問を抑え込み、他のメンバーの批判も遮断してしまうということを証明しました。また、自集団の能力を楽観視しすぎたり、外の集団を低く見ようとする考え方に陥ってしまうので、愚かな集団決定を導いてしまう…ということも見出されています。

一方、似た態度を持つ個人が集まって話し合うと、それらの態度がさらに強まり、極端な結論が出てきてしまう傾向がある…ということを指摘したのは J.A.F.ストーナーです。

「時給 1200 円だが、仕事はハードで能力が低いとみなされたらすぐに首になるバイトと、時給 800 円だが長く続けられて仕事も楽なバイトどちらがよいか」という議論を、お金に困っている生徒 3 人でしてもらおうと…

A「安定も大事だけど、時給が 400 円も違うっていうのは大きいよね」

B「5 時間働いたら 2000 円も違ってくるなあ…あんまりしんどいと嫌だけど」

C「しんどいかどうかはやってみないとわからないよ」

B「少しくらいハードな方がやりがいもあるかもね」

…というような感じで、少しずつ周りの積極性に支えられて、選択がリスキーな方にシフトしていくことを、「リスキー・シフト」と言います。



反対に、皆で合議した結果、慎重な結果に傾いていくこともあります。

「体育大会での騎馬戦は危険だと言われているが今年はどうするか」という議論を職員室でしてみると…

A「確かに危険ではあるが、毎年やってきてけが人はほとんど出ていませんよね」

B「白熱するので生徒達は楽しみにしています…でも今日日、世間の目も厳しいですからね…」

C「去年は打撲した生徒が 2 人ほどいました」

B「どちらかと言うと、やめておいた方が無難でしょうな」

A「骨折でもされたら大変ですよ」

…というような感じで、少しずつ慎重な意見に傾いていくことを、「コーシャス・シフト」と言います。

クラスや部活で話し合いをした結果、個人的に考えていた意見とは大分違う結論で終わった…という経験をした人もいるのではないのでしょうか。類似した意見・態度を持つ人々が集まって話し合う場では、他者の意見が自分の意見を支持してくれます。さらに、自分は周りより進んだ意見を持っている、皆とより同調している、ということを示そうとするモチベーションが働きやすくなり、互いに少しずつ強調した意見を言い合ううちに、どんどんエスカレートしていき、結果的に個人個人が考えるよりも極端な結論が出る…と考えられています。ハイトスピーチのような団体活動もこれに当てはまるのでしょう。

この影響は、集団合議の後に個人で考え直してもらってもまだ続くと言われており、かなり強力な動機付けを持つことが実験で示されています。みんなを出した結論だから中立的で合理的だ…ということには、必ずしもならないことがわかりますね。このような中では、少数派の意見はいつのまにか消えてしまうことも少なくありません。そんな中で「流された」といたずらに自分を責めることなく、集団の持つ力というものを知っておいてくださいね。その上で、何度か結論を見直す、別の集団に属する人の意見を聞くなど、二重、三重でのチェックをしていくことも、必要ではないかなあ、と自戒を込めて思います。